

パウロの喜び（２）—生きている教会—

2008. 1. 29 (火)

ベック兄メッセージ (メモ)

引用聖句

テサロニケ人への手紙・第一 1章1節から10節

パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたの上にありますように。私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています。なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

先週に引き続き、テサロニケ第一の手紙について一緒に考えてみたいと思います。先週はこの手紙を全般的に概観しましたが、今日は1章をもう少し詳しく考察してみたいと思います。

この第1章のテーマは、『生きている教会』と言えるのではないかと思います。では、ある人は死んだ教会もあるのかと思うかも知れませんが、あるのです。黙示録の3章1節を読むと、

ヨハネの黙示録 3章1節後半

「あなたは、生きているとされているが、実は死んでいる。」

サルデスの教会は「死んだ教会」でした。テサロニケの教会は「生きている教会」でし

た。死んでいる教会とは、イエス様のご臨在されていない教会です。「いのちのない教会」はもちろん用いられませんし、証しにもなりません。

サルデスの教会については、異端のことは少しも触れられていません。正しい教えを守っていたと言えます。同時に、どのような殉教、迫害、悪魔の攻撃も、サルデスの教会については見ることはできません。偽教師も、狂信者もいませんでしたし、偽預言者もいなかったようです。ではなぜ悪魔はこのサルデスの教会を攻撃しようとしなかったのでしょうか。それはこの教会が死んでいたからです。そのために、偽預言者もいないし、秩序も乱されていなかったため、悪魔もこの教会を攻撃する必要がなかったのです。しかしこの教会は、すべてのものが見せかけであり、「まことのいのち」がなかったのです。人々のこの教会に対する判断は肯定的だったでしょう。彼らはこの教会が「生きている」と言ったに違いありません。そしてこの教会は「生きた教会」として知られておりました。人々もよく集まり、その説教の内容も優れたものだったことでしょう。たとえその評判は悪くなかったとしても、その評判は「偽り」にすぎませんでした。サルデスの教会は、いのちのない、イエス様のいらっしやらない教会でした。

一方、テサロニケの教会は、生きている教会でした。パウロの喜びの種だったに違いありません。テサロニケの教会は、ただ生まれて存在したというだけでなく、しっかりと根をおろし、信じる者も成長し妥協することなく、いつもはっきりとした態度をとることができました。この教会の特徴は、非常に早く成長したということです。

1章には、選ばれていること、再臨、聖化、清め、聖霊について書き記されていることから判断して、テサロニケは生まれたばかりの状態にとどまらず、立派な、おとなの教会に成長したことがわかります。

テサロニケ人への手紙・第一 1章4節

神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています。

10節

また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

また、

テサロニケ人への手紙・第一 4章1節から3節

終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いま

あなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたかを、あなたがたは知っています。神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け…、

再び1章に戻りまして、

テサロニケ人への手紙・第一 1章5節、6節

なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。

また聖霊について、

テサロニケ人への手紙・第一 4章8節

ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです。

テサロニケ人への手紙・第一 5章19節

御霊を消してはなりません。

第1章は、要するにテサロニケの兄弟姉妹が主なる神に立ち返ったことに対するパウロの感謝の祈りに満たされています。パウロは彼らについて考えたとき、本当に心から感謝することができました。

六つの質問について簡単に考えたいと思います。

*第一番目、このテサロニケの教会の特徴は、どのようなものであったか。

それは、生き生きとした健全な教会、つまり正常な教会だったことがわかります。この教会の秘訣は「主のみことば」の上に立ち、主のみことばを大事にしたということです。主のことばは、彼らにとって本当にすべてのすべてでした。1章5節、6節、8節と3度も、みことばという表現がでてきています。この教会は、パウロにとってだけではなく、主イエス様にとっても大きな喜びだったからです。みことばこそ、彼らにとってすべてでした。もう一度読みましょう。

テサロニケ人への手紙・第一 1章5節、6節

私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主

とにならう者になりました。

8節

主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。

私たちの集会は、彼ら（テサロニケの兄弟姉妹たち）と比べると、模範的な集会であるとは言えることが出来ないかもしれません。なぜなら、兄弟姉妹すべての信者が「みことば」の上に立つことをせず、みことばに満たされてはいないからです。何ともしばしば私たちは、自分の心や、他人の言うこと、悪魔のささやきの方を、みことばよりも大切にしていることでしょう。それらのものに耳を傾けず、ただ「主のみことば」だけを大切にしている者は、豊かに祝福されるのです。もちろんパウロ自身も、いつもみことばは何と言っているか、みことばに基づいて語ったのです。テサロニケの兄弟姉妹も同じ態度をとりました。

*第二番目。みことばがこのテサロニケの集会に対して、どのような影響を与えたか。

テサロニケ人への手紙・第一 1章5節

なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところへ、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。

この節によると、主のみことばがテサロニケの教会で、力ある働きをすることができたのです。

聖霊の力によってパウロは福音を宣べ伝えました。

6節

あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。

この節を読むと、彼らはみことばを受け入れたことがわかります。単にみことばを聞いただけでなく、それを受け入れたことも明らかです。みことばを受け入れて自分のものにしなければ、みことばの力を体験することもできません。彼らは経験しました。ですから、「主のことばがあなたがたから出た」と8節に記されています。

8節

主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。

主のみことばが彼らから出て響き渡った、と書いてあります。ここでみことばが広められたことがわかります。これは、本来謙遜な教会が成長している過程を現わしています。即ち、まず力をもって福音が伝えられ、そのみことばが受け入れられ、更に広められるということこそ、「生き生きとした教会」の特徴です。もちろんみことばは単なる普通のことばや、教えではなく、「イエス様ご自身」です。みことば、即ちイエス様です。ヨハネ伝はこの真理をはっきりと示しています。

ヨハネの福音書 1章1節から4節

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。

14節

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

ここでも同じように、「ことば」の代わりに「主イエス様」と置き換えて読んで、主イエス様が力強く宣べ伝えられ、イエス様が受け入れられ、イエス様が広められたと表現すれば、意味もはっきりします。本当の「宣べ伝え」とは、すべてその内容の中心が「イエス様ご自身」です。

このことについて、「よみがえりの書」であるコリント第一の手紙15章3、4節を読むと、次のように書いてあります。

コリント人への手紙・第一 15章3、4節

私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

パウロにとって大切なことは、「聖書は何と言っているか」それだけです。

*第三番目。どのようにして、みことばがテサロニケで宣べ伝えられたか。

テサロニケ人への手紙・第一 1章5節

なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。

この節を読んでもわかりますが、力と聖霊と強い確信とによって、福音が宣べ伝えられ

たことです。

ここで明らかなことは、聖霊とパウロが一つになって働いたということです。これこそ祝福の秘訣です。パウロはいつも「聖霊に聞き従いたい」という餓え渴きを持っていましたから、聖霊が臨んで働いてくださったのです。聖霊は忠実に従う者にのみ、臨んで働くことができるのです。

使徒行伝は初代教会の歴史の本ですが、5章を読むと次のように書かれています。聖霊が従う者に与えられる、と。5章の30節から読みます。

使徒の働き 5章30節から32節

「私たちの先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」

と記されています。聖霊の働きは教会の成長にとってどうしても必要です。聖霊がともに働くことができれば、こんにちでもテサロニケに見られたと同じことが実現されるのです。

*第四番目。みことばを受け入れることについて、何と書いてあるか。

テサロニケ人への手紙・第一 1章5節、6節

なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところへ、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。

「私たちの福音」とは、即ち、与えられたみことばのことです。

パウロはここではっきり証ししています。私たちは、聖霊によって、みことばを宣べ伝えただけでなく、みことばを受け入れていたこともわかります。「聖霊による喜びをもってみことばを受け入れた」と記されています。聖霊はみことばを宣べ伝えるときだけでなく、受け入れるときも積極的に働くと言っています。

そしてみことばを受け入れることは、イエス様を受け入れることであり、イエス様を受け入れることこそ本当の信仰です。みことばは、理解するものではなく、受け入れるものです。みことばは読むべきものでなく食べるべきものである、と有名な哲学者ヒルティは言っています。読んだことは忘れやすいのに対して食べたものは力となると言っています。

私たちがみことばを読むだけにとどまるか、それとも本当に食べて消化するかということは、私たちの人生にとって非常に大きな結果をもたらすことになるのです。ただ「みことばを読む」ことにとどまった場合は、やがて失われてしまいますが、本当に食べて十分に消化したならば大いに祝福されます。

結婚も二人の者が一つになるという意味において非常に重大な結果をもたらしますが、イエス様を受け入れるか否かは、更に更に重大な結果をもたらすのです。受け入れることは意志の行為です。

ヨハネの福音書 1章12節

この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

と記されています。この箇所によると、信じることは即ち受け入れることです。ですから、信仰とはその人の意志の問題です。信仰は、自然に心の中に入り込んでくる感情、或いは漠然とした気持ではなく、一人一人が決断しなければならない意志の問題です。したがって順序として、まず決心して、それから行なうことです。

マルコ伝15章の中に放蕩息子の話が出てきますが、放蕩息子は父のもとに帰る決心をしたのです。信仰とは自分自身の惨めな状態と罪の苦しみを素直に認め、主が提供された贈り物を素直に受け入れる決心をすることの決断に他なりません。主のことばはこんにちも力強いものです。みことばは生きているものです。

ヘブル書の著者は、このみことばの働きについて次のように書いたのです。

ヘブル人への手紙 4章12節

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

みことばは、生きているものです。いのちを与えるものです。力強く生きているものだから、それを受け入れた者には大きな影響を与えるのです。テサロニケの兄弟姉妹は、みことばを受け入れたことによって、新しく生まれ変わったのです。このようにして、「受け入れられたみことば」は、新しく生まれ変わるための「種」であり、決して感情や気分や人間の理解力によるものではありません。

新しく生まれ変わることは次のように実現されます。

・第一に、主に対する信仰。

テサロニケ人への手紙・第一 1章8節

主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。

と書かれています。

・二番目、仕えることと偶像を捨てること。

9節

私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、…

と記されています。

・三番目、聖霊を受け入れること。

テサロニケ人への手紙・第一 4章8節

ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです。

と書かれています。

みことばを受け入れる者は、主を信じることが出来るようになり、その結果偶像を捨てて主に立ち返り、聖霊を受け入れるようになるのです。

*五番目の質問は、テサロニケではどのようなのちの現われが見られたか。

みことばによって、テサロニケの集会が新しいのちを持っていたことがわかります。そして前に読みました1章2、3節に、この「新しいのち」のことについて次のように書かれています。

テサロニケ人への手紙・第一 1章2節、3節

私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。

ここで三つのことがら、即ち

- ・一番目。信仰の働き。
- ・二番目。愛の労苦。
- ・三番目。望みの忍耐。

について書き記されています。

・まず、信仰の働きと記されていますが、本当の信仰は、その結果としておのずから豊かな実を結ぶようになるのです。信仰とは新しい生活を送るための力です。

ですから、テサロニケの信者たちはただ信じただけでなく、その信仰は行動のかたちで、行ないとして現われてきました。実際には偶像から離れてまことの神に仕えるようになったのです。

・次に、愛の労苦ということばについて考えると、次のように言えます。即ち、信仰が新しい生活の力であるとするならば、新しい生活のための暖かさ（愛）を意味しています。

テサロニケの兄弟姉妹は、イエス様を愛しただけでなく、主なる神を愛するあまり主のために苦しんだのです。実際生活では生けるまことの神に仕えるというかたちで現われたのです。

・三番目に、望みの忍耐とここで書かれています。信仰が新しい生活のための力であり、愛が新しい生活のための暖かさであるとするなら、望みが新しい生活のための光であると言うことができます。

テサロニケの兄弟姉妹は、ただ望んだだけではなく、その望みのために勇敢に迫害を甘んじて受けたのです。彼らは偶像から離れて、生けるまことの神に仕えただけでなく、心から主イエス様を待ち望んだのです。

テサロニケの兄弟姉妹の特徴は、試された信仰、偽らざる愛、そして生き生きとした望みでした。あらゆる信者の生涯はこれと同じように、救われてまことの神に仕えイエス様を待ち望む心構えであるべきです。

私たちは「救われるために救われた」のではなく、まことの神に仕え、心から主イエス様を待ち望むために救われた、ということをテサロニケの兄弟姉妹はよくわかったのです。このような理由から、兄弟姉妹は隠れている状態にとどまることはできなかったのです。光は輝かなければなりません。まことのいのちは成長し、広く大きくなっていかなければなりません。

テサロニケの兄弟姉妹が模範的な生活を送ったので、周囲への証しとなったのです。新しく生まれ変わった人生の実は、信仰と愛と希望です。新しく生まれ変わった人生の特徴は、まことの神に立ち返り、忠実に仕え、主を待ち望むことです。しかし、このことは、テサロニケの兄弟姉妹の人的な力によるものではなく、主によって選ばれ、御霊の働きを妨げなかったからです。

こんにち多くの信者が、私はイエス様を信じていると言いながら、実際生活の中で豊かな実を結ぶこともなく、未信者とほとんど変わらないような生活をしていることは、まことに悲しむべき実態ではないでしょうか。

試された信仰、偽りのない愛、生き生きとした望みが少しも見られないような場合は、本当にイエス様と結びつき、交わりを持っているかどうか疑わしいものです。

*第六番目。結論としての問いは、テサロニケの教会がどれほど広がる力を持っていたか。
テサロニケ人への手紙・第一 1章7節

こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。

テサロニケの兄弟姉妹が、その地方全体の模範となったことがわかります。彼らは人間として立派だったのではなく、イエス様が彼らの中に大きな位置を占め、十分に働くこと

がお出来になったからなのです。

8 節

主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。

主のみことばがテサロニケの兄弟姉妹から出て、その地方一帯に響き渡ったことがわかります。主イエス様についての喜ばしい訪れが、テサロニケの兄弟姉妹を通して広く告知されました。そのためにマケドニヤとアカヤの人々もイエス様を知るようになったのです。

みことばを受け入れること、またそれを広めることは、お互いに一つの関連性を持っています。心の中に深く入れれば入るほど、そこに広まる力も大きくなります。

生き生きとした教会は、絶えずイエス様を宣べ伝えているものです。私たちがみことばを受け入れる従順さに応じて、周囲の人々が導かれ救われるようになります。あなたがたは私たちの証しであるべきだというみことばは、イエス様の願っておられることです。生き生きとした証しをしない教会は、教会としての権威を持っていません。

イエス様はテサロニケの教会をご覧になった時、本当に心から喜ぶことがお出来になったのです。しかし、主はエペソの教会をご覧になった時は、あまり喜ぶことがお出来にならなかったのです。いったいどうしてでしょう。

ヨハネの黙示録 2章3節から5節

「あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。」

燭台を取りはずすとは、証しがなくなることであり、やがてはその教会が死んでしまうことを意味します。エペソの教会はそのとき悔い改めることをしなかったため、ついに教会として存在することができなくなってしまったのです。

私たちの集会も、悔い改めなければ、同じように死んでしまうことは明らかです。ですから、私たちは主のみ声に耳を傾け、それに従わなければなりません。それによってのみ、あらゆる束縛から解放され、豊かに用いられるようになるのです。

了